



# ITA\_利用手順マニュアル

管理コンソール

—第1.3版—

## 免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

## 商標

- ・ LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hatは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Apache、Apache Tomcat、Tomcatは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Ansibleは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
- ・ Active Directoryは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、TMマークは本書に明記しておりません。

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

## 目次

目次	2
はじめに	4
1 ITA システム 管理コンソールの概要	5
1.1 ITA 管理コンソールについて	5
1.1.1 画面説明 ログイン、パスワード登録	6
(1) ログイン画面	6
(2) パスワード変更	6
(3) ログアウト画面(もう一度ログインする)	6
1.1.2 画面説明 基本画面構成	7
1.1.3 画面説明 メニュー操作部の操作方法	8
(1) 表示フィルタ	8
(2) 一覧/更新	9
(3) 登録	10
(4) 登録全件ダウンロードとファイルアップロード編集	10
(5) 変更履歴	11
(6) プルダウンによる入力項目について	11
(7) テーブル設定	12
1.1.4 画面説明 ITA 管理コンソール	13
(1) メインメニュー	13
(2) システム設定	13
(3) メニューグループ管理	14
(4) メニュー管理	17
(5) ロール管理	19
(6) ユーザー管理	20
(7) ロール・メニュー紐付管理	21
(8) ロール・ユーザ紐付管理	22
(9) IP アドレスフィルタ管理	23
(10) メニューエクスポート	24
(11) エクスポート/インポート管理	27
(12) ITA バージョン確認	28
(13) オペレーション削除管理	29
(14) ファイル削除管理	31
1.2 BackYard コンテンツ	32
1.2.1 BackYard 処理一覧	33
1.2.2 BackYard 処理説明	34
(1) メール送信	34
(2) ロール紐付確認+クリーニング	39
(3) 投入オペレーション確認+クリーニング	39
(4) ファイル確認+クリーニング	39
(5) メニューインポート実行	39
(6) メニューインポートクリーニング	39
(7) ActiveDirectory 情報ミラーリング	39
1.3 ActiveDirectory 連携機能の利用	40
1.3.1 利用の開始	41
1.3.2 機能概要	43

(1)	AD 情報ミラーリング機能 .....	43
1.3.3	AD 情報ミラーリング機能 .....	エラー! ブックマークが定義されていません。
(1)	AD 認証(Kerberos 認証)機能 .....	44
1.3.4	AD 情報ミラーリング機能 .....	45
1.3.5	AD 認証(Kerberos 認証)機能 .....	47
1.3.6	本機能の例外について .....	48
(1)	連携対象外レコード .....	48
(2)	AD 認証対象外(ITA 内部認証) .....	48
2	運用操作 .....	49
2.1	インストールの開始 .....	49
2.2	オペレーション作業履歴の定期削除 .....	49
2.3	ログレベルの変更 .....	51
2.4	メンテナンス .....	52
2.4.1	ITA システム 独立型プロセスの起動/停止/再起動 .....	53
3	Appendix .....	54
3.1	トラブルシューティング .....	54

## はじめに

---

本書は、ITA システムの管理コンソールの概要および操作方法について記載したものです。

## 1 ITA システム 管理コンソールの概要

本章では ITA を操作するための管理コンソールについて説明します。

### 1.1 ITA 管理コンソールについて

ITA 管理コンソールでは、ITA を利用するユーザー（アカウント）、操作メニューの実行権限の登録／更新／削除を行います。

また、ITA 初期メニュー以外に、利用部門が独自の情報を ITA のデータベース上で管理する場合、管理レベルにあった個別メニューの作成もできます。

個別メニューの登録／変更／削除をご使用される際は、製品サポートへお問い合わせください。

表 1.1-1 Web コンテンツメニュー/画面一覧

No	メニューグループ	メニュー・画面
1	共通部	ログイン画面
2		パスワード変更画面
3		ログアウト画面
4	ITA 管理コンソール	メインメニュー
5		システム設定
6		メニューグループ管理
7		メニュー管理
8		コンテンツファイル管理
9		ロール管理
10		ユーザー管理
11		ロール・メニュー紐付管理
12		ロール・ユーザ紐付管理
13		IP アドレスフィルタ管理(デフォルトでは非表示)
14		メニューエクスポート
15		メニューインポート
16		エクスポート/インポート管理
17		オペレーション削除管理(デフォルトでは非表示)
18		ファイル削除管理(デフォルトでは非表示)

### 1.1.1 画面説明 ログイン、パスワード登録

#### (1) ログイン画面

ITA システムのメニュー画面に未ログインでアクセスした場合、「ログイン画面」が表示されます。



図 1.1-1 ITA ログイン画面

ITA システムのインストール直後は必ず次のログインIDとパスワードでログインしてください。

ログイン ID : administrator

初期パスワード : password

インストール後に初めてログインした際は「パスワード変更画面」に遷移します。

#### (2) パスワード変更

ログインユーザーは任意のタイミングで自身のパスワードを変更できます。

各メニュー画面右上の「パスワード変更」ボタンから「パスワード変更画面」に遷移し、パスワード変更を行ってください。



図 1.1-2 ITA パスワード変更画面

#### (3) ログアウト画面(もう一度ログインする)

各メニュー画面右上「ログアウト」ボタンをクリックすると、システムからログアウトします。

表示されている「もう一度ログインする」リンクをクリックすると、ログイン画面に遷移します。



図 1.1-3 ITA ログアウト画面

### 1.1.2 画面説明 基本画面構成

ITA システムが提供する各メニュー画面は基本的に同じ要素で構成されています。  
その構成要素は次のとおりです。



図 2.2-1 画面構成

表 2.2-1 画面構成一覧

No	画面名	説明
1	コンソール メニューグループ名	各サブメニューが所属しているグループの名称。 現在表示しているメニューグループ名が表示されます
2	サブメニュー	現在のコンソールメニューで、操作/表示可能なメニューがリストとして表示されます。
3	メニュー操作部	各メニューに対応する登録、設定などを行う部分です。 ※詳細は後述します。
4	ログイン情報	現在ログインしているアカウント名が表示されます。 パスワード変更やログアウト処理操作が可能です。
5	システム管理者	管理者のメールアドレスのリンクです。



### 1.1.3 画面説明 メニュー操作部の操作方法

各メニュー操作部の構成要素に対する操作方法を説明します

#### (1) 表示フィルタ

各メニューで登録されている項目を表示するための検索条件を指定します。  
検索条件、検索項目はメニューごとに異なります。ここでは共通機能について説明します。

図 2.3-1 表示フィルタ画面

#### A. 廃止カラム

- ・初期状態では、「廃止含まず」がセットされています。
- ・他に「全レコード」、「廃止のみ」が任意操作で選択可能であり、希望表示方法を指定します。**必ずいずれかの選択が必須。**

#### B. 検索条件

- ・検索する条件を指定します。
- ・システム名や備考などにおいて、文字指定ができる項目については[あいまい検索] or [プルダウン検索]でフィルタすることができます。

#### C. オートフィルタ

- ・オートフィルタをチェックしておく、フィルタ条件を選択するごとに条件に合った一覧を自動で表示します。
- 画面表示時のチェック有無は、管理コンソール[メニュー管理]の「オートフィルタチェック」で設定可能です。

#### D. カラム説明 (Description)

- ・カーソルを合わせると該当する列の説明文がポップアップ表示されます。

#### E. テーブル設定

- ・テーブルの項目の表示/非表示切り替えと、テーブルをスクロールした際の固定箇所の設定が行えます。
  - ・テーブルの設定はフィルタ表示、一覧/更新、変更履歴の項目で行えます。
- ※機能の詳細は「1.1.3(7)テーブル設定」で説明します。

### (2) 一覧/更新

表示フィルタで指定した検索条件に一致した項目の一覧が表示されます

表示フィルタ	メニューID	メニューグループ (ID: 名称)	メニュー名称	認証画面	サービス状態	メニューグループ内表示順序	オートフィルタ	最終更新日時	最終更新者
廃止含まず ▼	▼ プルダウン検索	{空白} ▼ Z100000001 Z100000002 Z100000003 Z100011601 ▼	▼ プルダウン検索	▼ プルダウン検索	▼ プルダウン検索	▼ プルダウン検索	▼ プルダウン検索	▼ プルダウン検索	▼ プルダウン検索

フィルタ フィルタクリア A

一覧/更新 B

更新	廃止	メニューID	メニュー名称	認証画面	サービス状態	メニューグループ内表示順序	ロール情報	オートフィルタチェック	初回フィルタ	Web表示最大行数	Web表示前確認行数	Excel出力最大行数	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	Z100000001	ログイン画面	不要	サービス提供中	1	ロール情報	しない	しない				2015/04/01 10:00:00	システム管理者
更新	廃止	Z100000002	パスワード変更	不要	サービス提供中	2	ロール情報	しない	しない				2015/04/01 10:00:00	システム管理者
更新	廃止	Z100000003	アカウントロックエラー	不要	サービス提供中	3	ロール情報	しない	しない				2015/04/01 10:00:00	システム管理者
更新	廃止	Z100011601	不正操作からのアクセス警告	不要	サービス提供中	4	ロール情報	しない	しない				2015/04/01 10:00:00	システム管理者
更新	廃止	Z100000001	ログインID一覧	不要	サービス提供中	5	ロール情報	しない	しない				2015/04/01 10:00:00	システム管理者
更新	廃止	Z100000002	パスワード変更	不要	サービス提供中	6	ロール情報	しない	しない				2015/04/01 10:00:00	システム管理者
更新	廃止	Z100000003	アカウントロックエラー	不要	サービス提供中	7	ロール情報	しない	しない				2015/04/01 10:00:00	システム管理者

フィルタ検索条件数: 7

Excel出力 Table setting

図 2.3-2 一覧/更新(一覧)画面

メニューID	メニューグループ (ID: 名称)	メニュー名称	認証画面	サービス状態	メニューグループ内表示順序	最終更新日時	最終更新者
Z100000001	Z100000001: Exastro IT Automation	ログイン画面	不要	サービス提供中	1	自動入力	自動入力

※必須項目です。

戻る 更新 B

Table setting

図 2.3-3 一覧/更新(更新)画面

#### A. フィルタ

- ・検索条件を入力し、Enter キーまたは「フィルタ」ボタンをクリックすると「一覧/更新」サブメニューに登録情報が表示されます。

#### B. 更新

- ・各項目に対して「更新」ボタンをクリックし、更新画面に遷移します。
- ・情報を更新し、「更新」ボタンをクリックすることで、更新が完了します。

### C. 廃止

- ・「廃止」ボタンをクリックし、廃止画面に遷移します。
- ・「廃止」ボタンをクリックし、登録情報が無効になります。

※無効となった情報は、復活させることができます。

表示フィルタの「廃止のみ」を選択して表示し、「復活」ボタンをクリックすることで、情報が有効になります。

### (3) 登録

各メニューに対して、新規に項目を登録します。

登録内容は各メニューによって異なりますので、各利用手順マニュアルを参照してください。

図 2.3-4 登録(1件ごと)画面

#### A. 登録

- ・「登録」サブメニューを開き、「登録開始」ボタンをクリックして登録フォームを表示します。必要な情報を入力し、「登録」ボタンをクリックします。

### (4) 登録全件ダウンロードとファイルアップロード編集

各メニュー画面に登録されている情報を一括してエクセル形式でダウンロードすることができます。また、同じ形式のファイルで、一括して情報を登録することができます。

図 2.3-5 登録(一括)画面

A. 全件ダウンロード、新規登録用ダウンロード

- ・「全件ダウンロード」をクリックすると、各メニュー画面で登録している項目の一覧をエクセル形式でダウンロードできます。
- ・「新規登録用ダウンロード」をクリックすると、各メニュー画面に対応する新規登録用のエクセルシートをダウンロードできます。

B. ファイルアップロード

- ・Aの全件ダウンロード、新規登録用ダウンロードでダウンロードしたエクセルファイルを編集し、ここからアップロードすることで一括して追加、登録ができます。
- 「参照」ボタンでファイルを指定し、「ファイルアップロード」をクリックしてください。

(5) 変更履歴

各メニュー画面で、登録した項目の変更履歴を表示することができます。

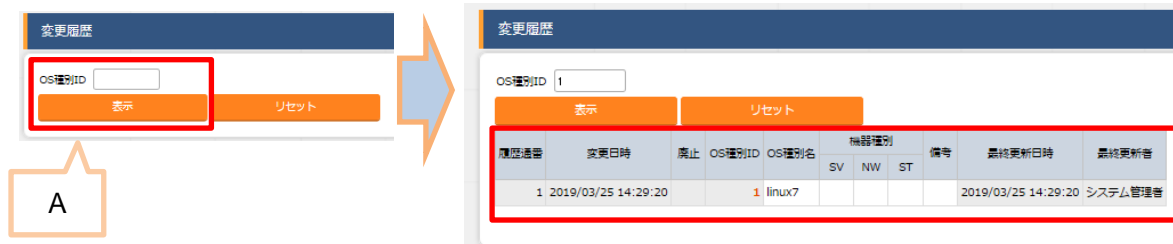


図 2.3-6 変更履歴画面

A. システム ID に各メニューの主キーである「管理システム項番」を指定することで、対応する項目に対する変更履歴を表示することができます。

B. 変更実施日時が新しい順から一覧表示されて、前回との変更箇所が青色太文字で表示されます。

(6) プルダウンによる入力項目について

登録/更新時の入力項目で、プルダウンによる選択が可能な項目は、以下の仕様となっています。

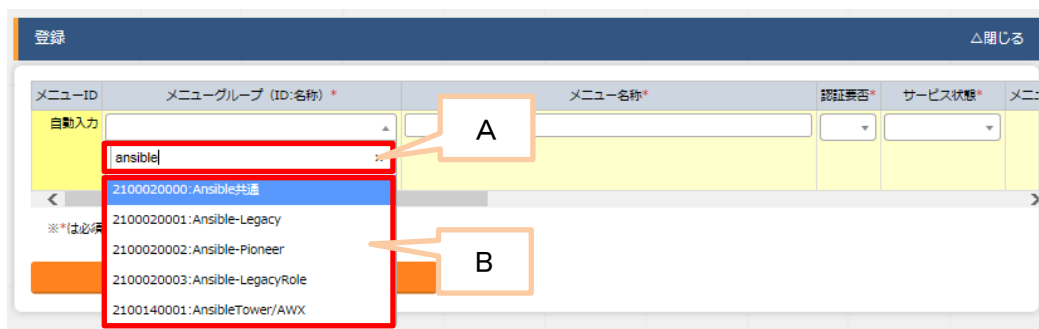


図 2.3-7 プルダウンによる入力項目

A. 検索窓が表示されます。検索したい語句を入力することにより、選択項目を絞り込むことができます。部分一致検索で、大文字と小文字、全角と半角は補正検索されます。

B. 選択項目が表示されます。

## (7) テーブル設定

テーブルの項目の表示/非表示切り替えと、テーブルをスクロールした際の固定箇所の設定が行えます。

テーブルの設定はフィルタ表示、一覧/更新、変更履歴の項目で行えます。

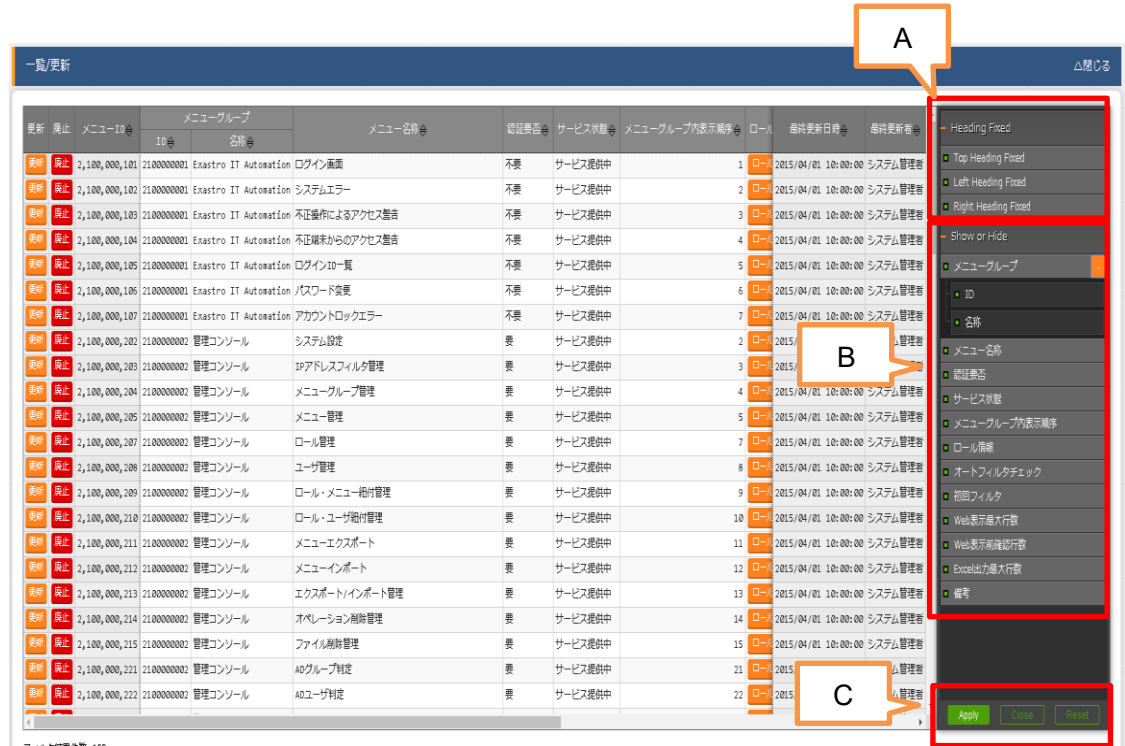


図 2.3-8 テーブル設定メニュー表示(一覧/更新)

### A.Heading Fixed

- ・テーブルをスクロールした際の固定箇所を設定します
- ・デフォルトでは全ての設定で固定になっています。
- ・各固定箇所の説明は以下の通りです。
  - Top Heading Fixed・・・テーブル上部の項目名
  - Left Heading Fixed・・・テーブル左部の更新、廃止、一意項目(例:[メニュー管理]メニューの場合はメニューID)
  - Right Heading Fixed・・・テーブル右部の最終更新日時、最終更新者

### B. Show or Hide

- ・選択した項目の表示/非表示を設定します。
- ・デフォルトでは全ての項目が表示されます。

### C.ボタン

- ・設定の実行ボタンとメニュー
- ・項目を選択/非選択した状態で Apply ボタンを押下すると選択/非選択した項目が設定に反映されます
- ・Close を押下するとテーブル設定メニューが閉じます
- ・Reset を押下すると選択/非選択した項目が全てデフォルトの状態に戻ります。

### 1.1.4 画面説明 ITA 管理コンソール

#### (1) メインメニュー

メインメニューは、各メニューグループのメインメニューへの URL リンクを表示しており、押下することで指定のメニューグループのメインメニューへ遷移できます。

表示されるメインメニュー、並びにマニュアル一覧画面で表示されるマニュアルは、**インストールしたドライバのみ**表示されます。



図 1.1-4 メインメニュー画面

#### (2) システム設定

ITA システム導入・運用時に設定すべき各種情報の登録／更新／廃止を行います。

##### 【注意】

サブメニューの「システム設定」は、製品サポート向けのメニューですので、使用しないでください。

設定値を変更されますと、ITA の動作は保証されません。

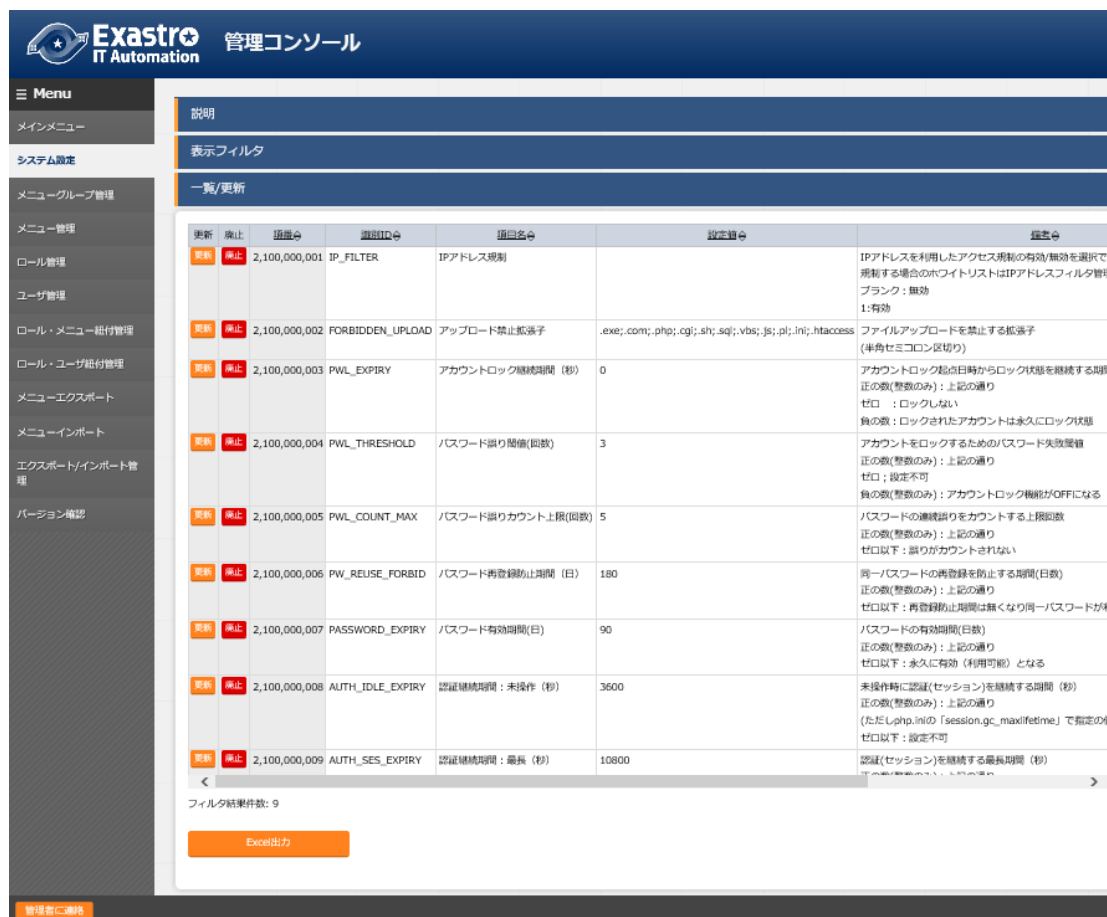


図 1.1-5 管理コンソール画面

### (3) メニューグループ管理

メニュー(子)はメニューグループ(親)に属します。この画面で親となるメニューグループの登録／更新／廃止を行います。メニューグループ名称は、**一意**である必要があります。

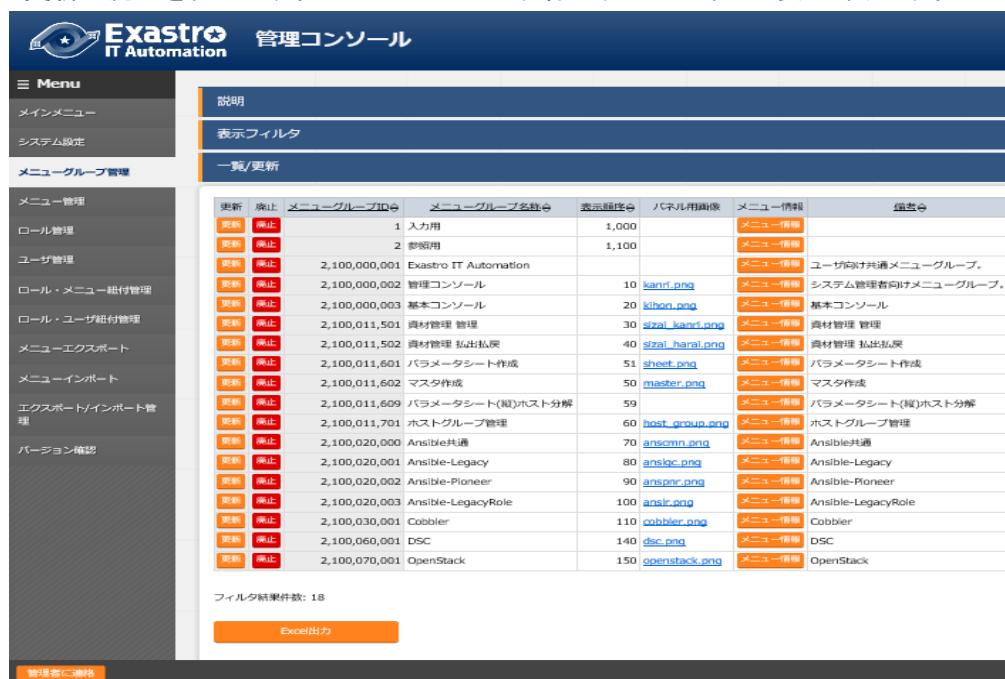


図 1.1-6 メニューグループ管理画面

ここで、各サブメニューの操作について説明します。操作は、他のメニューにおいても共通です。  
データ更新系の操作のため、システム管理者でログインしてください。

(登録内容の更新／廃止 － 1 件ごと更新／廃止／復活)

メニューグループを 1 件 1 件更新／廃止／復活する場合の操作です。

① 「一覧/更新」サブメニューに登録情報を表示

「表示フィルタ」に検索条件を入力し、Enter キーか[フィルタ]ボタンをクリックします。

- 1) 登録内容を変更する                      － [更新] ボタンで編集モードにし、値を変更
- 2) 項目を無効にする                        － [廃止] ボタンをクリック
- 3) 無効(廃止)の項目を有効にする       － [復活] ボタンをクリック

② 実行確認のポップアップ画面が表示され、[OK]または[キャンセル]をクリックします。

(追加登録 － 1 件ずつ登録)

メニューグループを 1 件 1 件登録する場合の操作です。

① [登録] サブメニューを開き、[登録開始] ボタンをクリックして登録フォームを表示します。

② 「メニューグループ名称」を入力し、[登録] ボタンをクリックします。

※ メニューグループ名称は重複登録できません。

※ 「表示順序」は任意ですが、空白の場合はメニューグループがメインメニューに表示されません。

※ 「表示順序」の昇順にメインメニューに表示されます。「表示順序」が同じ場合は、  
「メニューグループ ID」の昇順で表示されます。

※ 「備考」は任意です。

図 1.1-7 メニューグループ管理画面(登録)

(登録内容の更新／廃止－ まとめて更新／廃止)

一度に複数のメニューグループを登録する場合の操作です。

① [全件ダウンロードとファイルアップロード編集] サブメニューを開き、[全件ダウンロード(Excel)] で新規登録用シートをダウンロードします。

② 以下の各項目を入力してファイルを保存します。

実行処理種別= 登録／更新／廃止／復活 を選択

- ・ メニューグループ名称 = 変更後の名称
- ・ 表示順序                      = 変更後の内容
- ・ 備考                            = 変更後の内容

③ [ファイルを選択] ボタンで②のファイルを指定し、[ファイルアップロード] でアップロードを行います。

※ 「実行処理種別」が選択されていなかったり、正しい処理種別を選択していない場合、登録が実行されません。



(追加登録 - まとめて登録)

一度に複数のメニューグループを登録する場合の操作です。

① [全件ダウンロードとファイルアップロード編集] サブメニューを開き、  
[新規登録用ダウンロード(Excel)] で新規登録用シートをダウンロードします。

② 以下の各項目を入力してファイルを保存します。

- ・実行処理種別 = 登録
- ・メニューグループ名称 = 新規に登録するメニューグループ名称
- ・表示順序 = メニューグループの表示順序

③ [ファイルを選択] ボタンで②のファイルを指定し、[ファイルアップロード]で  
アップロードを行います。

※ 「実行処理種別」を「登録」以外にすると、登録が実行されません。

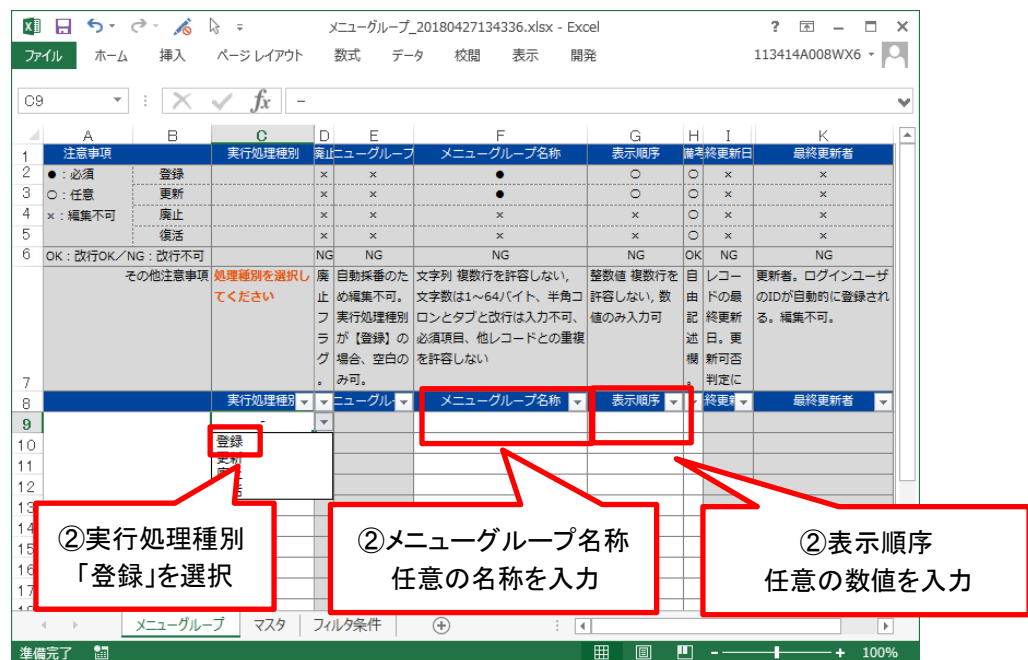


図 1.1-8 メニューグループ管理画面

※ メニューグループの登録を行うと、作成したメニューグループ配下に自動的に「メインメニュー」が登録されて、「システム管理者」ロールのユーザで参照することが可能となります。

具体的には、以下のメニューに自動的にデータが登録されます。

- ・「メニュー管理」メニュー
- ・「コンテンツファイル管理」メニュー
- ・「ロール・メニュー紐付管理」メニュー

#### (4) メニュー管理

この画面でコンテンツの機能(メニュー)の登録／更新／廃止を行います。  
メニュー名称は一意である必要があります。

##### ① メニューに対するロール情報・コンテンツファイルの確認

「一覧/更新」サブメニューから、その機能に対するロール情報とコンテンツファイルの対応を確認できます。

Exastro IT Automation 管理コンソール										
Menu										
メインメニュー										
システム設定										
メニューグループ管理										
メニュー管理										
ロール管理										
ユーザ管理										
ロール・メニュー紐付管理										
ロール・ユーザ紐付管理										
メニューエクスポート										
メニューインポート										
エクスポート/インポート管理										
バージョン確認										
説明										
表示フィルタ										
一覧/更新										
更新	廃止	メニューID	メニューグループ		メニュー名称	認証要否	サービス提供	メニューグループ内表示順序	ロール情報	操作
		ID	ID	名称						
更新	廃止	1	1	入力用	代入値登録	要	サービス提供中	1	ロール情報	する
更新	廃止	2	2	参照用	代入値登録	要	サービス提供中	1	ロール情報	する
更新	廃止	2,100,000,101	2100000001	Exastro IT Automation	ログイン画面	不要	サービス提供中	1	ロール情報	しない
更新	廃止	2,100,000,102	2100000001	Exastro IT Automation	システムエラー	不要	サービス提供中	2	ロール情報	しない
更新	廃止	2,100,000,103	2100000001	Exastro IT Automation	不正操作によるアクセス警告	不要	サービス提供中	3	ロール情報	しない
更新	廃止	2,100,000,104	2100000001	Exastro IT Automation	不正端末からのアクセス警告	不要	サービス提供中	4	ロール情報	しない
更新	廃止	2,100,000,105	2100000001	Exastro IT Automation	ログインID一覧	不要	サービス提供中	5	ロール情報	しない
更新	廃止	2,100,000,106	2100000001	Exastro IT Automation	パスワード変更	不要	サービス提供中	6	ロール情報	しない
更新	廃止	2,100,000,107	2100000001	Exastro IT Automation	アカウントロックエラー	不要	サービス提供中	7	ロール情報	しない
更新	廃止	2,100,000,202	2100000002	管理コンソール	システム設定	要	サービス提供中	2	ロール情報	する
更新	廃止	2,100,000,203	2100000002	管理コンソール	IPアドレスフィルタ管理	要	サービス提供中	3	ロール情報	する
更新	廃止	2,100,000,204	2100000002	管理コンソール	メニューグループ管理	要	サービス提供中	4	ロール情報	する
更新	廃止	2,100,000,205	2100000002	管理コンソール	メニュー管理	要	サービス提供中	5	ロール情報	する
更新	廃止	2,100,000,207	2100000002	管理コンソール	ロール管理	要	サービス提供中	7	ロール情報	する

#### 1.1-9 メニュー管理

ロール情報

メニュー情報

廃止	メニューID	メニューグループ		メニュー名称	認証要否	メニューグループ内表示順序	備考	最終更新日時	最終更新者
		ID	名称						
	21000000208	2100000002	管理コンソール	ユーザ管理	要		8 廃止不可	2015/04/01 10:00:00	システム管理者

ロール情報

ロールID	アクセス権限	ロール名称
1	メンテナンス可	システム管理者

メンテナンス

図 1.1-10 ロール情報画面(メニュー管理)

## ② パラメータ

メニューの登録情報には次の項目があります。

表 1.1-2 「メニュー管理」のパラメータ

	項目名	説明
1	認証可否	不要: ログインせずにアクセス可能 要: ログイン後のみアクセス可能
2	サービス状態	サービス提供中: アクティブ状態。一般ユーザーがアクセス可能 メニュー開発中: システム管理者のみアクセス可能
3	メニューグループ内表示順序	メニューグループのサブメニューで表示する順序。昇順で上から表示される。
4	オートフィルタチェック	メニュー表示時に「オートフィルタ」のチェックボックスにチェックを入れるかどうかの設定
5	初回フィルタ	メニュー表示時に「フィルタ」を押下した状態で表示するかどうかの設定
6	Web 表示最大行数	[一覧/更新]に表示する最大行数
7	Web 表示前確認行数	[一覧/更新]に出力する前に確認ダイアログを表示する最大行数
8	Excel 出力最大行数	Excel 出力する最大行数

認証可否	サービス状態	メニューグループ内表示順序	オートフィルタチェック	初回フィルタ	Web表示最大行数	Web表示前確認行数	Excel出力最大行数
① プルダウン検索	② プルダウン検索	③ プルダウン検索	④ プルダウン検索	⑤ プルダウン検索	⑥ プルダウン検索	⑦ プルダウン検索	⑧ プルダウン検索

図 1.1-11 メニュー登録画面(メニュー管理)

【Web 表示最大行数】と【Web 表示前確認行数】には次のような関係があります。

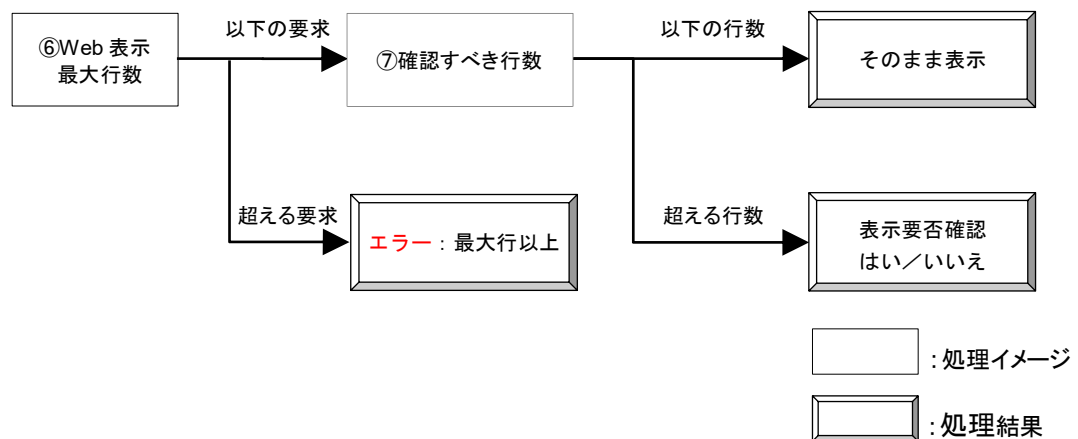


図 1.1-12 Web 表示最大行数の処理概要

【Excel 出力最大行数】を超えている場合、そのメニューの「全件ダウンロードとファイルアップロード編集」の項目の表示が、以下のように変化します。

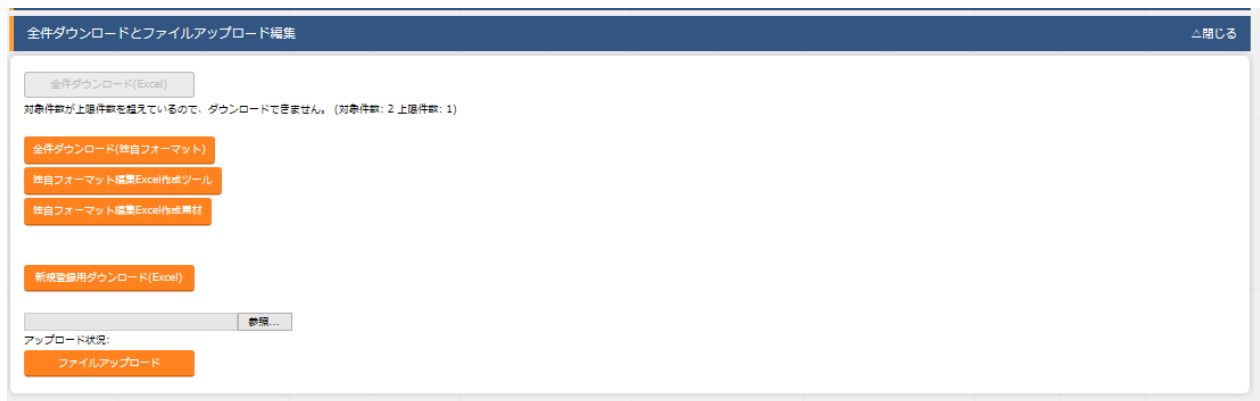


図 1.1-13 エラー表示画面(メニュー管理)

この画面からダウンロードできるファイルは、Excel ではなく独自フォーマットの CSV です。このファイルを使って編集、アップロードを行いたい場合は、「独自フォーマット編集 Excel 作成ツール」のボタンでツールをダウンロードし、ダウンロードされたファイルの中にある「ReadMe」ファイルの説明に従って操作してください

#### (5) ロール管理

ロールの登録／更新／廃止を行います。

また、そのロールを持つユーザーや対応付けられているメニューを確認のみ行えます。

ロール名は一意である必要があります。

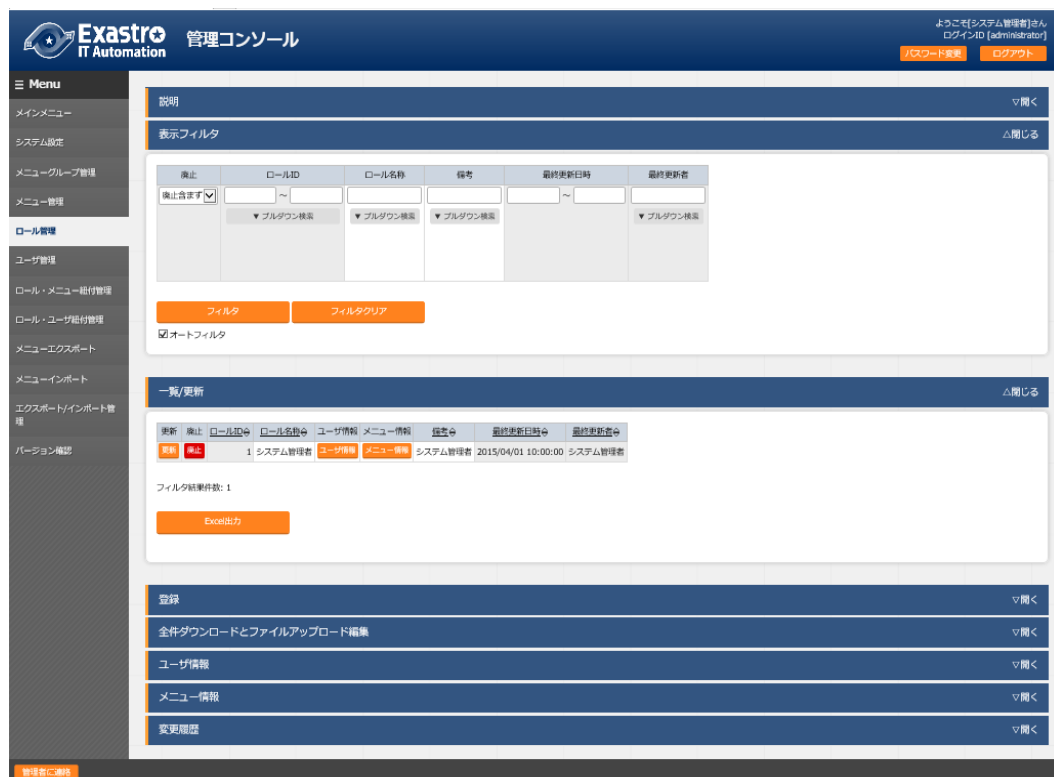


図 1.1-14 コンテンツファイル管理画面

## (6) ユーザー管理

ユーザー（アカウント）の登録／更新／廃止を行います。

また、「ロール情報」ボタンから、ユーザーとロール（実行権限）の紐付のメンテナンスができます。

アカウントロックがかかった場合、この画面から解除可能です。

ログイン ID は一意である必要があります。

The screenshot shows the Exastro IT Automation management console. The left sidebar contains a menu with options like 'メニュー管理' (Menu Management) and 'ロール管理' (Role Management). The main area is titled 'ユーザー管理' (User Management) and includes a search filter section with fields for '廃止' (Deletion), 'ユーザーID', 'ログインID', 'ユーザー名', 'メールアドレス', 'PW最終更新日時', 'PWカウンタ', and 'ロック日時'. Below this is a table of users. The 'ロール情報' (Role Information) button is highlighted with a red box. The table has columns for '更新' (Update), '廃止' (Deletion), 'ユーザーID', 'ログインID', 'ログインPW', 'ユーザー名', 'メールアドレス', 'ロール情報', 'PW最終更新日時', 'PWカウンタ', 'ロック日時', 'ロック解除', '姓', '名', '最終更新日時', and '最終更新者'.

更新	廃止	ユーザーID	ログインID	ログインPW	ユーザー名	メールアドレス	ロール情報	PW最終更新日時	PWカウンタ	ロック日時	ロック解除	姓	名	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	administrator	*****	システム管理者	sample@xxx.bbb.co.jp	ロール情報	2019/07/17 17:22:14			ロック解除	システム管理者		2019/07/17 17:22:14	システム管理者

図 1.1-15 ロール設定画面への遷移操作画面（ユーザ管理）

## (7) ロール・メニュー紐付管理

各メニューとロール対応付けの登録／更新／廃止を行います。

ロールに紐付かないメニュー画面はメニューグループに表示されません。

The screenshot shows the 'Role Menu Assignment Management' screen in the Exastro IT Automation management console. The interface includes a sidebar menu with options like 'Main Menu', 'System Settings', 'Menu Group Management', 'Menu Management', 'Role Management', and 'User Management'. The main content area displays a table of role-menu assignments. The table has columns for 'Role' (ID, Name), 'Menu Group' (ID, Name), 'Menu' (ID, Name), and 'Assignment' (Status, Date, User). A 'Filter' button is located below the table. The table lists various roles and their associated menu groups and menus, including 'System Administrator', 'System Manager', and 'System User'.

図 1.1-16 ロール・メニュー紐付管理画面

「(4)メニュー管理」「(5)ロール管理」で登録したロールとメニューがリストボックスに表示される(下図 ①,②)ので、それぞれを選択し、紐付タイプ(下図 ③)を選択します。

The screenshot shows the 'Group Menu Permission Setting' screen. The form has three main sections: 'Role' (①), 'Menu Group' (②), and 'Assignment Type' (③). The 'Role' field is set to '1:システム管理者' and the 'Menu Group' field is set to '2100000001:astro IT Automation:2100000101:ログイン画面'. The 'Assignment Type' field is set to '閲覧のみ'. There are '戻る' (Back) and '登録' (Register) buttons at the bottom.

図 1.1-17 グループメニュー権限の設定画面(ロール・メニュー紐付管理)

## (8) ロール・ユーザ紐付管理

各ユーザー（アカウント）とロール（実行権限）対応付けの登録／更新／廃止を行います。

ロールに紐付かないユーザー（アカウント）は各メニュー画面にアクセスできません

The screenshot shows the 'ロール・ユーザ紐付管理' (Role-User Assignment Management) screen. The sidebar menu on the left includes options like 'メインメニュー', 'システム設定', 'メニューグループ管理', 'メニュー管理', 'ロール管理', 'ユーザ管理', and 'ロール・メニュー紐付管理'. The main content area has a '説明' (Description) section, a '表示フィルタ' (Display Filter) section with various dropdowns and input fields, and a '一覧/更新' (List/Update) section with a table of assignments. The table has columns for '更新' (Update), '廃止' (Delete), 'ID', 'ロール' (Role), 'ユーザ' (User), '権限' (Permission), '最終更新日時' (Last Update Time), and '最終更新者' (Last Updated By). The table shows one assignment for 'システム管理者' (System Administrator) with ID 1. Below the table is a 'フィルタ結果件数: 1' (Filter Result Count: 1) and an 'Excel出力' (Excel Output) button. At the bottom, there are buttons for '登録' (Register), '全件ダウンロードとファイルアップロード編集' (Download all and edit file upload), and '変更履歴' (Change History).

図 1.1-18 ロール・ユーザ紐付管理画面

「(5)ロール管理」ならびに「(6)ユーザー管理」で登録したロールとユーザーがリストボックスに表示される（下図 ①，②）ので、それぞれを選択します。

The screenshot shows the 'ユーザ権限の設定画面(ロール・ユーザ設定画面)' (User Permission Setting screen (Role-User Setting screen)). The main content area has a table with columns for '権限' (Permission), '最終更新日時' (Last Update Time), and '最終更新者' (Last Updated By). The table shows one user with ID 1 and login ID 'administrator'. Two red boxes labeled ① and ② highlight the 'ロールID(名称)' (Role ID (Name)) and 'ユーザID(ログインID)' (User ID (Login ID)) columns respectively. Below the table is a '※は必須項目です。' (※ is a required item.) note and buttons for '戻る' (Back) and '登録' (Register).

図 1.1-19 ユーザー権限の設定画面(ロール・ユーザ設定画面)

## (9) IP アドレスフィルタ管理

ITA システムに接続を許可するユーザー端末の登録／更新／廃止を行います。

当機能は、導入初期は無効のため、メニューに表示されていません。

利用する場合は、以下の手順で有効にしてください。

- ① 「ロール・メニュー紐付管理」を開く
- ② 「表示フィルタ」→「メニューグループ」のプルダウンから「管理コンソール」を選択する
- ③ 「IP アドレスフィルタ管理」を「復活」する
- ④ 画面をリロードする

IPv4 形式のアドレスを登録し、「システム設定」で「IP アドレス規制」を有効にすると、登録した端末からのみアクセス可能になります。

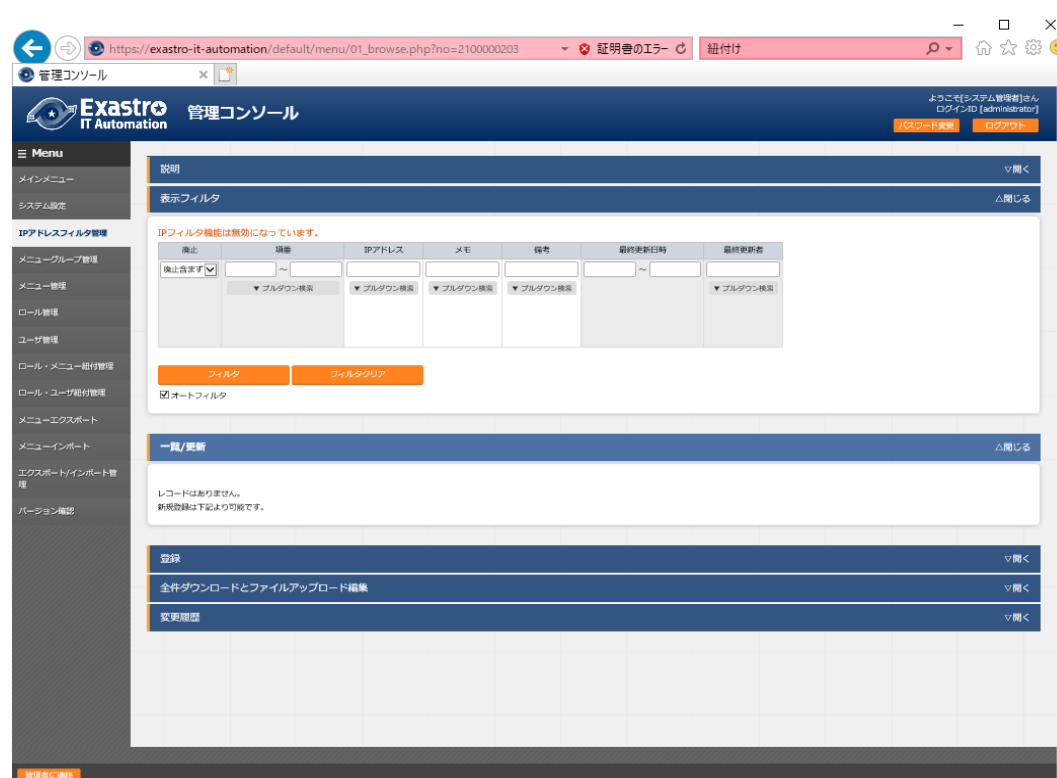


図 1.1-20 IP アドレスフィルタ管理画面

※ 「システム設定」で「IP アドレス規制」が無効の場合、「IP フィルタ機能は無効になっています。」メッセージが表示されます。

### 【注意】

接続可能な端末を登録後に「システム設定」の「IP アドレス規制」を有効にしてください。  
有効端末を登録せず「IP アドレス規制」を有効にすると、ITA システム自体に接続できなくなります。



## (10) メニューエクスポート

ITA システムに登録されているデータを、メニューごとにエクスポートします。

※データを別の ITA 環境に移す場合、すべてのメニューを対象に移動しないとデータの整合性が壊れる可能性があります。

### ① エクスポートするメニューを選択する

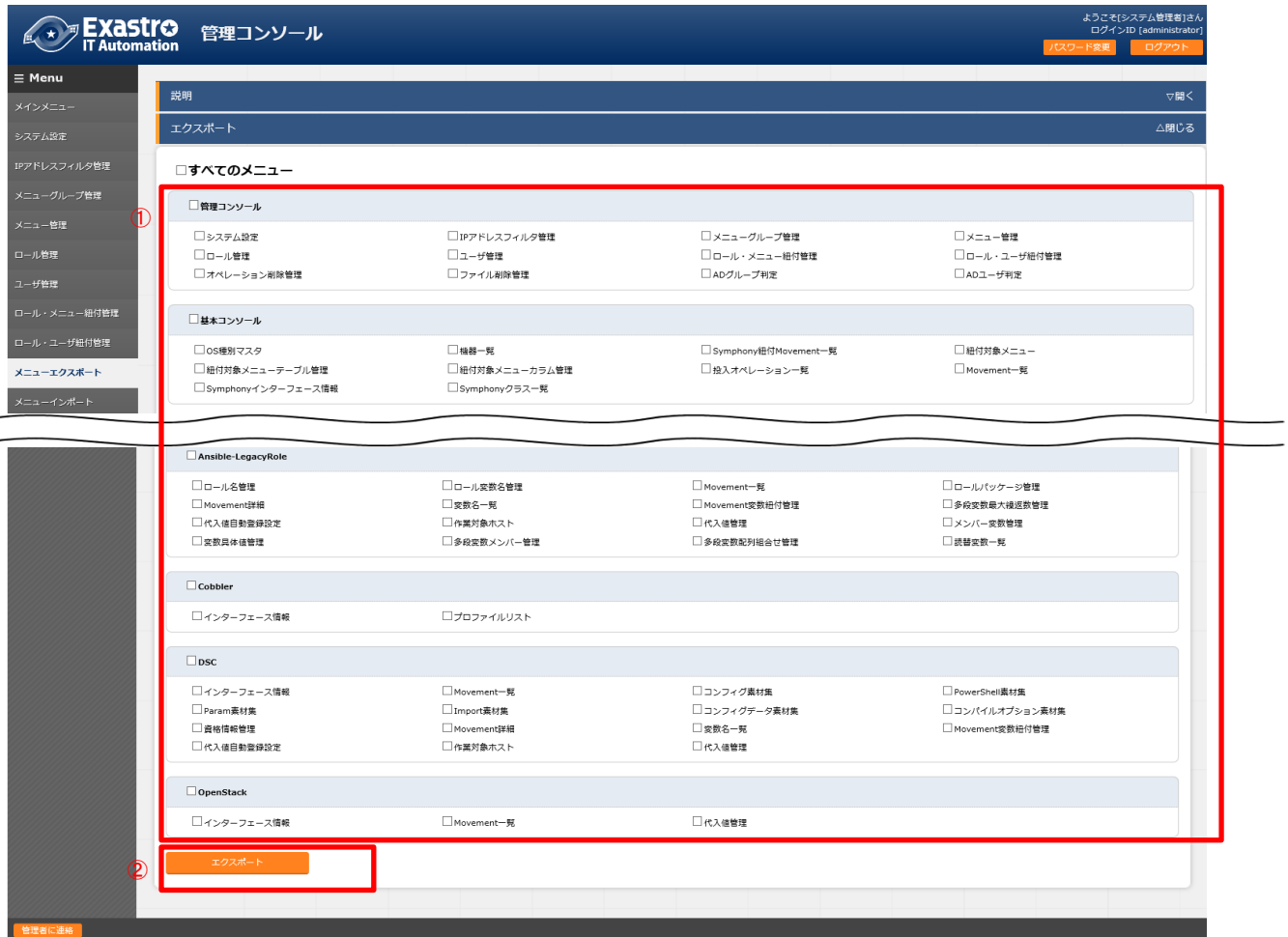
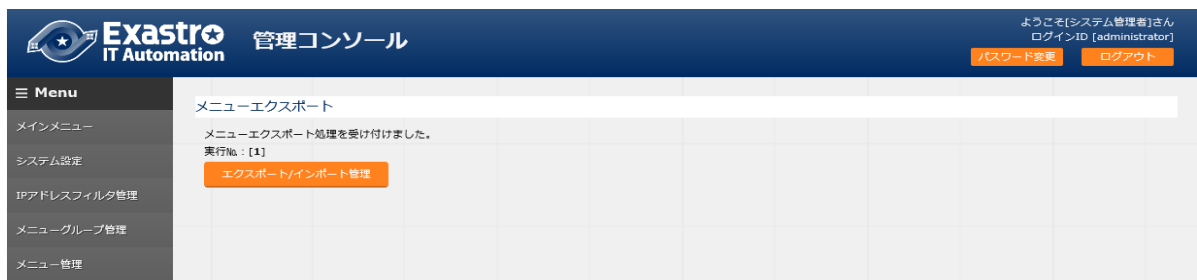


図 1.1-21 メニューエクスポート画面(1)

### ② メニューを選択後、エクスポートボタンをクリックする

エクスポート処理の実行No.が表示されるので、エクスポート/インポート管理画面で処理のステータスを確認してください。



## メニューインポート

「(10)メニューエクスポート」で保存した kym ファイルをアップロードします。

- ① アップロードする kym ファイルを選択する
- ② アップロードボタンをクリックする



図 1.1-22 メニューインポート画面(1)

- ③ インポートするメニューを選択する  
チェックボックスがチェックされているメニューがインポートされます。  
インポートする必要がないメニューは、チェックは外してください。

- ④ インポートボタンをクリックする  
廃止データをインポートしない場合は「インポート(廃止を除く)」をクリックする

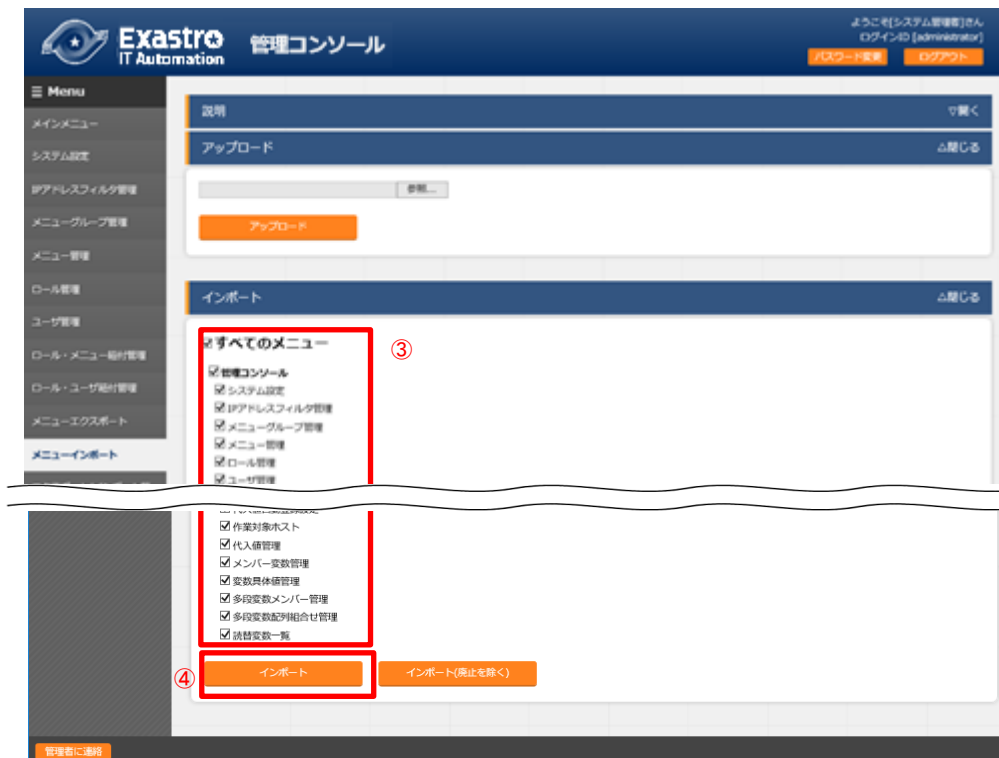


図 1.1-23 メニューインポート画面(2)

⑤ メニューインポートボタンをクリックする

インポート処理の実行No.が表示されるので、エクスポート/インポート管理画面で処理のステータスを確認してください。



図 1.1-24 メニューインポート画面(3)

### (11) エクスポート/インポート管理

エクスポートとインポートのステータスを確認します。

ステータスは、「未実行」、「実行中」、「完了」の順に変わります。

処理種別は、「エクスポート」または「インポート」が表示されます。

インポート種別は、処理種別が「インポート」の場合に「通常」または「廃止を除く」が表示されます。

フィルタボタンをクリックしてステータスが「完了」になったことを確認してください。

インポート処理でエラーが発生した場合は、ステータスが「完了(異常)」になります。

Exastro IT Automation 管理コンソール

ようこそ[システム管理者]さん  
ログインID [administrator]  
パスワード変更 ログアウト

Menu

- メインメニュー
- システム設定
- IPアドレスフィルタ管理
- メニューグループ管理
- メニュー管理
- ロール管理
- ユーザ管理
- ロール・メニュー紐付管理
- ロール・ユーザ紐付管理
- メニューエクスポート
- メニューインポート
- エクスポート/インポート管理
- astrodバージョン確認

説明 開く

表示フィルタ 開く

一覧 閉じる

実行種別	ステータス	処理種別	インポート種別	ファイル名	最終更新日時	最終更新者
1	完了	エクスポート		ita_exportdata_20190601045655.kym	2019/06/01 04:56:55	データポータビリティプロシージャ
2	完了	インポート	通常	2_ita_exportdata_20190601045655.kym	2019/06/01 05:12:46	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

全件ダウンロード 開く

変更履歴 開く

図 1.1-25 エクスポート/インポート管理画面

## (12) ITA バージョン確認

ITA の各機能のバージョンを確認します。  
インストール済みの機能のみ確認できます。

**Exastro IT Automation 管理コンソール**

**Menu**

- メインメニュー
- システム設定
- IPアドレスフィルタ管理
- メニューグループ管理
- メニュー管理
- ロール管理
- ユーザ管理
- ロール・メニュー紐付管理
- ロール・ユーザ紐付管理
- メニューエクスポート
- メニューインポート
- エクスポート/インポート管理
- オペレーション削除管理
- ファイル削除管理

**バージョン情報**

ドライバ	バージョン
Base	Exastro IT Automation Base functions version 1.1
Ansible	Exastro IT Automation Ansible Driver version 1.1
Cobbler	Exastro IT Automation Cobbler Driver version 1.1
Create_param	Exastro IT Automation Create_param version 1.1
DSC	Exastro IT Automation DSC Driver version 1.1
Hostgroup	Exastro IT Automation Hostgroup version 1.1
Hostgroup2	Exastro IT Automation Hostgroup2 version 1.1
Hostgroup3	Exastro IT Automation Hostgroup3 version 1.1
Material	Exastro IT Automation Material version 1.1
Material2	Exastro IT Automation Material2 version 1.1
Material3	Exastro IT Automation Material3 version 1.1
Material5	Exastro IT Automation Material5 version 1.1
OpenStack	Exastro IT Automation OpenStack Driver version 1.1

**バージョン確認**

[管理者に連絡](#)

図 1.1-26 ITA バージョン確認画面

### (13) オペレーション削除管理

基本コンソール[投入オペレーション一覧]に登録されているオペレーションの実施予定日に紐づくデータを、指定した「論理削除日数」と「物理削除日数」に基づき削除する設定を行います。  
「論理削除日数」を過ぎた場合は廃止、「物理削除日数」を過ぎた場合は DB から削除します。

当機能は、導入初期は無効のため、メニューに表示されていません。  
利用する場合は、以下の手順で有効にしてください。

- ① 「ロール・メニュー紐付管理」を開く
- ② 「表示フィルタ」→「メニューグループ」のプルダウンから「管理コンソール」を選択する
- ③ 「オペレーション削除管理」を「復活」する
- ④ 画面をリロードする

The screenshot displays the 'Management Console' (管理コンソール) of Exastro IT Automation. The left sidebar contains a 'Menu' (メニュー) section with various management options. The main area is titled 'Operation Deletion Management' (オペレーション削除管理) and features a 'Filters' (表示フィルタ) section with dropdown menus for 'Deletion Status' (廃止), 'Item Number' (項番), 'Logical Deletion Days' (論理削除日数), 'Physical Deletion Days' (物理削除日数), 'Table Name' (テーブル名), and 'Main Column Name' (主キーカラム名). Below the filters are 'Filter' (フィルタ) and 'Clear Filter' (フィルタクリア) buttons, along with a checkbox for 'Auto Filter' (オートフィルタ). The table below shows columns for 'Deletion Status', 'Item Number', 'Logical Deletion Days', 'Physical Deletion Days', 'Table Name', 'Main Column Name', and 'Operation' (オペレーション). The bottom of the page includes a 'Link to Administrator' (管理者に連絡) button.

図 1.1-27 オペレーション削除管理画面

画面の項目一覧は以下のとおりです。

表 1.2-3 登録画面項目一覧(投入オペレーション一覧)

項目	説明	入力 必須	入力形式	制約事項
論理削除日数	マシン日時を基準にして、オペレーションの実施予定日が指定した日数日数を経過していたら、論理削除(廃止)を行います。	○	手動入力	数値
物理削除日数	マシン日時を基準にして、オペレーションの実施予定日が指定した日数日数を経過していたら、物理削除(DB からレコード削除)を行います。	○	手動入力	数値
テーブル名	削除対象のテーブル名を指定します。	○	手動入力	最大長 256 バイト
主キーカラム名	テーブルの主キーのカラム名を指定します。	○	手動入力	最大長 256 バイト
オペレーション ID カラム名	テーブルでオペレーション ID を保持しているカラム名を指定します。	○	手動入力	最大長 256 バイト
データストレージパス取得 SQL	履歴データパス 1~4 でインタフェース情報のデータストレージ配下のパスを指定している場合、インタフェース情報のデータストレージ情報を取得する SELECT 文を記載します。データストレージ配下のパスを指定していない場合は省略可能です。  exp) select ANSIBLE_STORAGE_PATH_LNX AS <b>PATH</b> from B_ANSIBLE_IF_INFO where DISUSE_FLAG='0' ※必ずエイリアス名に PATH を設定してください。	-	手動入力	最大長 1024 バイト
履歴データパス 1	履歴データパス 1(省略可能) 作業インスタンスディレクトリの投入データ履歴や結果データ履歴など、~/ita-root/配下のパスの場合は、~/ita-root/からの相対パスを記載します。  exp) Ansible Legacy 投入データ履歴の場合 uploadfiles/2100020113/FILE_INPUT Ansible Legacy 結果データ履歴の場合 uploadfiles/2100020113 /FILE_RESULT 作業インスタンスディレクトリ(データストレージ)など、インタフェース情報のデータストレージ配下のパスの場合はデータストレージを示すキーワード「/__data_relay_storage__」を付けたパスを記載します。  exp) Ansible Legacy 作業インスタンスディレクトリの場合 /__data_relay_storage__/legacy/ns/ ~/ita-root/配下またはデータストレージ配下以外のパスの場合は絶対パスを記載します。 exp) /var/log/hoge 履歴データパス 2~履歴データパス 4 も同様	-	手動入力	最大長 1024 バイト
履歴データパス 2	履歴データパス 2(省略可能)	-	手動入力	最大長 1024 バイト
履歴データパス 3	履歴データパス 3(省略可能)	-	手動入力	最大長 1024 バイト
履歴データパス 4	履歴データパス 4(省略可能)	-	手動入力	最大長 1024 バイト
備考	自由記述欄です	-	手動入力	最大長 4000 バイト

## (14) ファイル削除管理

サーバ上のファイルの最終更新日を確認して、保存期間が過ぎているファイルを削除する設定を行います。  
当機能は、導入初期は無効のため、メニューに表示されていません。  
利用する場合は、以下の手順で有効にしてください。

- ① 「ロール・メニュー紐付管理」を開く
- ② 「表示フィルタ」→「メニューグループ」のプルダウンから「管理コンソール」を選択する
- ③ 「ファイル削除管理」を「復活」する
- ④ 画面をリロードする

The screenshot shows the 'Exastro IT Automation 管理コンソール' interface. The left sidebar contains a 'Menu' section with various management options. The main area is titled '説明' (Description) and '表示フィルタ' (Display Filter). Below these are search filters for '廃止' (Discontinue), '項目' (Item), '削除日数' (Deletion Count), '削除対象ディレクトリ' (Deletion Target Directory), '削除対象ファイル' (Deletion Target File), 'サブディレクトリ削除有無' (Subdirectory Deletion Yes/No), and '備考' (Remarks). A table below these filters shows the '登録' (Registration) status for various items. The table has columns for '項目' (Item), '削除日数\*' (Deletion Count\*), '削除対象ディレクトリ\*' (Deletion Target Directory\*), '削除対象ファイル\*' (Deletion Target File\*), 'サブディレクトリ削除有無\*' (Subdirectory Deletion Yes/No\*), and '備考' (Remarks). The '自動入力' (Automatic Input) row is highlighted in yellow. At the bottom, there are buttons for '戻る' (Back) and '登録' (Register).

図 1.1-28 ファイル削除管理画面

画面の項目一覧は以下のとおりです。

表 1.2-4 登録画面項目一覧(投入オペレーション一覧)

項目	説明	入力必須	入力形式	制約事項
削除日数	最終更新日を基準にして、設定した日数を経過していたら、削除を行います。	○	手動入力	数値
削除対象ディレクトリ	削除対象ファイルが格納されているディレクトリを設定します。	○	手動入力	最大長 1024 バイト
削除対象ファイル	削除対象のファイル名を指定します。ワイルドカードでの設定が可能です。	○	手動入力	最大長 1024 バイト
サブディレクトリ削除有無	削除対象ディレクトリ直下のディレクトリも削除するかどうか設定する。 「あり」の場合、削除対象ディレクトリ直下のディレクトリの名前と最終更新日を確認して、削除対象であれば削除します。	○	リスト選択	あり／なし



## 1.2 BackYard コンテンツ

ここでは、ITA 基本機能での BackYard コンテンツについて説明します。

BackYard はサーバー内で独立して動作する常駐プロセス化した機能です。Web ブラウザ上で操作する Web コンテンツとは異なり、ユーザーは BackYard の存在を意識することはありません。

処理の開始・停止等の制御はコマンドラインで実行してください。

### 1.2.1 BackYard 処理一覧

BackYard の処理の一覧を以下に記述します。

表 1.2-1 BackYard 機能

No	処理名称	ファイル名(※)	備考
1	メール送信	ky_mail※1	必要が無ければ停止可
2	ロール紐付確認+クリーニング	ky_std_checkcondition-linklist※1	常駐
3	投入オペレーション確認+クリーニング	ky_execinstance_dataautoclean-workflow.sh※2	Cron 起動
4	ファイル確認+クリーニング	ky_file_autoclean-workflow.sh※3	Cron 起動
5	メニューインポート実行	ky_data_portability_execute-workflow	常駐
6	メニューインポートクリーニング	ky_data_portability_dataautoclean-workflow.sh	Cron 起動
7	ActiveDirectory 情報ミラーリング	ky_activedirectory_roleuser_replication-workflow.php※7	常駐

※1 ファイル配置ディレクトリは ~/ita-root/backyards/webdbcore

※2、5、6、7 ファイル配置ディレクトリは ~/ita-root/backyards/ita-base

※3、4 ファイル配置ディレクトリは ~/ita-root/backyards/common

## 1.2.2 BackYard 処理説明

BackYard の処理について説明を以下より記述します。

### (1) メール送信

メール送信は、ユーザーが作成したメールのテンプレートに送信元、送信先アドレスや本文内の変数を動的に置換し、自動送信する処理です。

メール送信はテンプレートリスト、テンプレート、送信依頼ファイルという3つのファイル（詳細後述）を参照し、実行の可否を判断しながら処理を行います。

送信パターンは フリー型、セーフ型、フリーフォーマット型の3パターンがあります。

それぞれのパターンによる各ファイルの要不要、必要事項は次の表のとおりです。

表 1.2-2 送信タイプ別参照ファイルへの記載事項

送信タイプ	ファイル名	テンプレート	テンプレートリスト				送信依頼ファイル			
		ファイル中の項目	テンプレート ID	置き換え 文言数	from, to	cc	タイトル	from, to	cc	置き換え 文字列
		位置	1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	1 行目	2,3 行目	4 行目	5 行目以降
フリー型		必要	必須	数値	不要		必須	必須	任意	指定分の 文字列
セーフ型				(0 以上)	必須	任意		不要		
フリーフォーマット型	不要(※)			X 固定						

※ メール本文は送信依頼ファイルに記述します。

次に、各ファイルの説明とサンプルを提示します。

**【重要】**各ファイルは、文字コード[UTF-8]／改行(LF)で編集してください。

#### ① テンプレートリスト

- ・ ファイル名 : sysmail.list
- ・ 配置ディレクトリ : ~/ita-root/confs/backyardconfs/

メールテンプレートで使用する変数数や送信先アドレスなどをリストするファイルです。  
このリストを元に送信処理が行われます。

#### ■ テンプレートリスト記述例

	1	2	3	4	5
フリー型	001	3			
セーフ型	002	3	from_add@ita.com	to_add@ita.com	cc_add@ita.jp
	003	7	from_add@ita.com	to1@ita.com,to2@ita.com	null
フリーフォーマット型	004	X	from_004@ita.com	to_004@ita.com	null

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ タブ区切り

図 1.2-1 テンプレートリスト 記述例

表 1.2-3 テンプレートリストの必須パラメーター一覧表

No	項目	必須	補足
1	テンプレート ID	○	001~999 (000 は予約済のため使用不可)
2	置き換え文言数	○	可変文字列数。例) 日付、人名など
3	送信元メールアドレス	△	送信依頼ファイルに記述しない場合は必須
4	送信先メールアドレス	△	同上
5	cc アドレス	×	不要の場合は「null」を指定

※ ④複数指定する場合はコンマ区切り

## ② テンプレート

- ・ ファイル名 : sysmail\_body\_nnn.txt
- ・ 配置ディレクトリ : ~/ita-root/confs/backyardconfs/

メールの本体です。ファイル名の[ nnn ] は「テンプレート ID」を入れてください。

- 例) ○ sysmail\_body\_001.txt  
× sysmail\_body\_1.txt

メール本文と、可変部分があれば置換用の変数(%%001%% ~ %%999%%)を記述します。  
変数は、テンプレートリストファイルに指定した「置き換え文言数」分の連番にします。

### ■ テンプレート記述例 [OK]

To: %%001%% 各位  
管理部よりお知らせです。  
%%003%%のパスワードが%%002%%日変更されていません。  
7日以内に新しいパスワードを設定してください。

順序の入れ替わりは OK

※ 置き換え文言数 = 3

### ■ テンプレート記述例 [NG]

To: %%001%% 各位  
管理部よりお知らせです。  
%%002%%のパスワードが%%005%%日変更されていません。  
7日以内に新しいパスワードを設定してください。

連番ではないため NG

## ③ 送信依頼ファイル

- ・ ファイル名 : sysmail\_nnn\_任意の半角英数字.txt
- ・ 配置ディレクトリ : ~/ita-root/temp/ky\_mail\_queues/ky\_sysmail\_0\_queue/

テンプレートに差し込む文字列を記載します。ファイル名の[ nnn ] は「テンプレート ID」を入れてください。[ nnn ]以降はファイルが一意になるよう任意の半角文字列を入れてください。

例) ファイル命名の例

- sysmail\_001\_20140813123025\_123456789  
○ sysmail\_001\_a001.txt  
× sysmail\_001\_  
× sysmail\_001\_.txt

テンプレートリスト、テンプレートを用意後、このファイルを配置ディレクトリに置くことで、メールが送信されます。

メール送信の際、置き換え文字をテンプレート中の変数に差し込みます。

送信依頼ファイルは、メール送信後、送信状況によって以下のディレクトリに移動します。

送信成功 → ~/ita-root/temp/ky\_mail\_queues/ky\_sysmail\_1\_success

送信失敗 → ~/ita-root/temp/ky\_mail\_queues/ky\_sysmail\_2\_error

### ■ 送信依頼ファイルフォーマット

送信依頼ファイルは、行ごとに意味が決まっています。

- 1 行目 ... メールタイトル  
2 行目 ... 送信元メールアドレス  
3 行目 ... 送信先メールアドレス(複数指定の場合はコンマで区切る)

4 行目 ... cc メールアドレス(不要の場合は空行)

5 行目 ~ ... 置き換え文字列

※ 2~4 行目はフリー型のみ必要

※ 5 行目以降の文字列行数が、テンプレートの変数数およびテンプレートリスト②置き換え文言数と同じでない場合、エラーになります。

「①テンプレートリスト」「テンプレート」を例に、送信依頼ファイル記述例を提示します。

#### ■ 送信依頼ファイル記述例

1) フリー型例: テンプレート ID = 001

sysmail\_001\_20160401\_0001.txt

```
パスワード変更依頼 ..... > メールタイトル  
admin@ita.jp ..... > 送信元アドレス  
ml_dev1@ita.jp ..... > 送信先アドレス  
ml_sup1@ita.jp ..... > cc アドレス  
システム部 ..... > %%001%% 置換文字列  
90 ..... > %%002%% 置換文字列  
開発部ポータル ..... > %%003%% 置換文字列
```

送信されたメール: 送信依頼ファイルから置換された箇所(赤字)

パスワード変更依頼  
from: admin@ita.jp  
to: ml\_dev1@ita.jp  
cc: ml\_sup1@ita.jp  
To: システム部 各位  
管理部よりお知らせです。  
開発部ポータルのパスワードが 90 日変更されていません。  
7 日以内に新しいパスワードを設定してください。

2) セーフ型例: テンプレート ID = 002  
sysmail\_002\_20160401\_0001.txt

パスワード変更依頼 ..... > メールタイトル  
システム部 ..... > %%001%% 置換文字列  
90 ..... > %%002%% 置換文字列  
開発部ポータル ..... > %%003%% 置換文字列

※ メールアドレスはテンプレートリストファイルに指定

送信されたメール: 送信依頼ファイルから置換されたか所(赤字)  
テンプレートリストから置換されたか所(青字)

パスワード変更依頼  
from: from\_add@ita.com  
to: to\_add@ita.com  
cc: cc\_add@ita.com  
To: システム部 各位  
管理部よりお知らせです。  
開発部ポータルのパスワードが 90 日変更されていません。  
7 日以内に新しいパスワードを設定してください。

3) フリーフォーマット型: テンプレート ID = 004  
sysmail\_004\_20160401\_0001.txt

パスワード変更依頼  
To: システム部 各位  
管理部よりお知らせです。  
開発部ポータルのパスワードが 90 日変更されていません。  
7 日以内に新しいパスワードを設定してください。

送信されたメール: テンプレートリストから置換されたか所(青字)

パスワード変更依頼  
from: from\_004@ita.com  
to: to\_004@ita.com  
cc:  
To: システム部 各位  
管理部よりお知らせです。  
開発部ポータルのパスワードが 90 日変更されていません。  
7 日以内に新しいパスワードを設定してください。

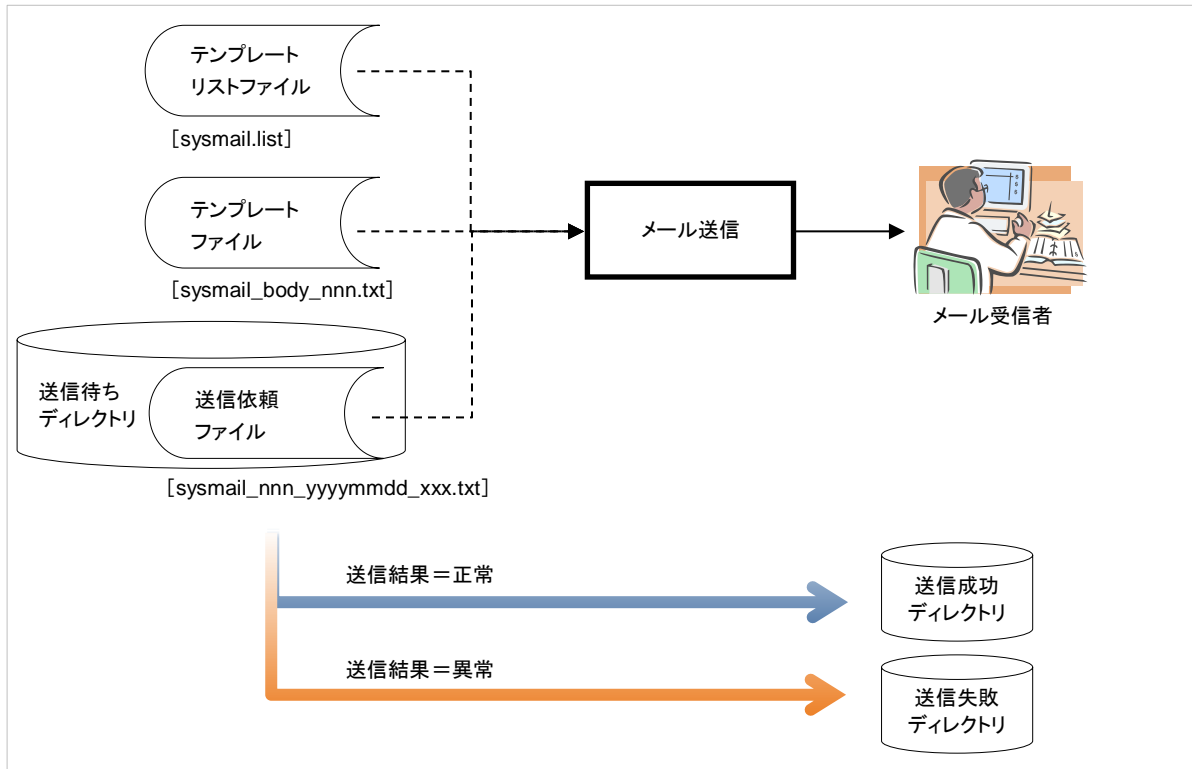


図 1.2-2 メール送信の動作イメージ

#### ④ メール送信までの操作手順

テンプレート ID 決定～送信までの手順を説明します。

ファイルのフォーマットや命名などは、「p34 ①テンプレートリスト ～ p35 ③送信依頼ファイル」を参照してください。

##### 1)テンプレートリストファイルの編集とテンプレート ID の決定

テンプレートリストファイルを編集で開き、テンプレート ID を決定します(重複しない番号)。行を追加し、1 列目に決定した ID を記述します。

フリー型、セーフ型の場合で可変の文字列を利用したい場合、置換文字数分を 2 列目に記述します。

送信モードにより、メールアドレスも記述します。

##### 2)テンプレートファイル作成(フリーフォーマット型以外)

メール本文を記述します。

可変部分がある場合、変数で記述します。

※可変部分がない場合、テンプレートファイルは不要です。

##### 3)送信依頼ファイル作成

##### 4)所定ディレクトリへファイル配置

- ・ テンプレートリスト → ~/ita-root/conf/ky\_backyardconf/
- ・ テンプレート → ~/ita-root/conf/ky\_backyardconf/
- ・ 送信依頼ファイル → ~/ita-root/temp/ky\_mail\_queues/ky\_sysmail\_0\_queue/

##### (2) ロール紐付確認＋クリーニング

ロール紐付リスト(ロール・ユーザ／ロール・メニュー)の内容を確認し、ロールとユーザー、ロールとメニューで無効な紐付け関係が存在したら、その情報を消去する処理です。

独立型の常駐プロセスとして動作します。

##### (3) 投入オペレーション確認＋クリーニング

「オペレーション削除管理」メニューの設定に基づいてデータの削除を行います。

##### (4) ファイル確認＋クリーニング

「ファイル削除管理」メニューの設定に基づいてファイルの削除を行います。

##### (5) メニューインポート実行

「メニューインポート」メニューで実行された情報を基に、メニューインポートを実行します。実行結果は「エクスポート/インポート管理」メニューで確認できます。

##### (6) メニューインポートクリーニング

メニューインポート実行で使用した一時ファイルを一定期間経過後に削除する。

##### (7) ActiveDirectory 情報ミラーリング

後述の ActiveDirectory 連携機能において、ミラーリング(一方向同期)処理を行います。

※ActiveDirectory 連携機能についての詳細は、「[1.3ActiveDirectory 連携機能の利用](#)」をご参照ください。



### 1.3 ActiveDirectory 連携機能の利用

ActiveDirectory(以下、AD といいます)をご利用されている場合、お使いの AD ドメインを構成するドメインコントローラーと ITA を連携させることができます。

後述の環境要件を満たすだけで、AD 側の設定は何ら変更せずに ITA 側の設定のみで連携を開始できます。

ITA 側の環境構築および設定方法の詳細は、「システム構成／環境構築ガイド\_ActiveDirectory 連携 編」を別紙マニュアルとして用意させて頂いておりますので、そちらをご参照ください。

**※ なお、本節で用いる用語の内、以下の用語は全て以下の意味で用いるものとします。**

- ・(用語)サインイン ID → (意味)AD 上の属性「userPrincipalName」の@より左側の値
- ・(用語)グループ名 → (意味)セキュリティグループの「sAMAccountName」の値

### 1.3.1 利用の開始

#### 【環境要件】

本機能をご利用頂くには、AD 側は以下の要件を満たしている必要があります。

- ・WindowsServer 2000 以降である
- ・ITA と連携する AD 上のユーザーには、userPrincipalName の設定がされている

**※ITA では、ログイン認証時のログイン名は「userPrincipalName」のみをサポートしています。**

#### 【AD 連携機能の有効化】

次の2つの条件を満たしている限り、自動で有効になります。

- ① 以下に示す所定のディレクトリに後述の「外部認証設定ファイル」が存在している

(所定ディレクトリ)

- ・~/ita-root/conf/webconfs/

- ② 後述の「外部認証設定ファイル」の内容において、有効な行が少なくとも1行はある

#### 【外部認証設定ファイルの準備】

外部認証設定ファイルの以下①～③について、適切に述する必要があります。

- ① ファイル名

ファイル名は必ず以下の名前である必要があります。

(ファイル名)

- ・ExternalAuthSettings.ini

- ② 接続先 DomainController の指定

■セクション:『DomainController\_1(DomainController\_2)(DomainController\_3)』

- ・host --- 連携先の DomainController の host を指定します。
- ・port --- 上記で指定の DomainController へ接続する際に使用するポートを指定します。

後述の「1.3.2 機能概要」で紹介する機能のいずれにおいても、接続先の DomainController の host および接続に使用する port は上記の設定値を使用します。

- ③ ミラーリング用ユーザーの指定

■セクション『Replication\_Connect』

- ・ConnectionUser --- ミラーリング処理で AD 上の情報を探索する為のユーザーを指定します。
- ・UserPassword --- 上記で使用するユーザーのパスワードを指定します。
- ・basedn --- ドメインのベース dn を指定します。(探索範囲を指定の場合、OU も指定)

ここで指定されたユーザーがミラーリング処理において AD 上の探索を行います。

その為、ConnectionUser には AD 上の探索権限を持つユーザーを指定する必要があります。

**※注:これらの設定に誤りがある場合でも、外部認証設定ファイルが存在する限り本機能は有効になります。この場合、後述の「連携対象外ユーザー」且つ、同じく後述の「連携対象外ロール」を権限として持つユーザー以外は ITA にログインできなくなります。**



### 1.3.2 機能概要

本機能は、次に挙げる2つの機能を提供します。

#### (1) AD 情報ミラーリング機能

AD ユーザーで ITA にログインする為には、ITA 上の「ユーザー管理」および「ロール管理」ならびに「ロール・ユーザ紐付管理」の 3 テーブルに対してもレコードを登録する必要があります。

AD 情報のミラーリング機能は、これらのテーブルに対して後述する所定の AD 情報を基にレコードの自動登録および更新をします。

一度登録されたロールは AD 連携機能が有効である限り常にミラーリング(一方向同期)される為、AD 上で変更した内容は ITA 上の当該レコードにも反映されます。

ミラーリング機能については、「エラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。」で詳述します。

### 1.3.3 AD 情報ミラーリング機能

」で詳述します。

#### (1) AD 認証(Kerberos 認証)機能

ログイン試行時の認証処理に、連携先 AD の Kerberos 認証機能を利用します。

AD 連携機能が有効である限り、自動的に AD 認証となります。

AD 認証機能については、「1.3.5 AD 認証(Kerberos 認証)」で詳述します。

### 1.3.4 AD 情報ミラーリング機能

AD 連携機能では、AD 上のユーザーと所属するセキュリティグループの関係を権限として扱います。  
(後述の連携対象外ユーザーを除きます)

ミラーリング機能は、AD 上のユーザーと所属するセキュリティグループの関係を自動的に ITA 上へ反映する機能です。

#### 【登録および更新】

以下のものを所定の AD 情報として ITA 上にミラーリングします。

まだ ITA 上に登録されたことのない AD 情報の場合には「登録」処理を行い、一度でも登録されたことがある AD 情報の場合には「更新」\*1処理を行います。

#### ① AD 上のユーザー情報 → ITA 上の「ユーザー管理」

- ・サインイン ID — ログイン ID
- ・表示名 \*2 — ログイン名
- ・電子メール \*3 — メールアドレス

#### ② AD 上のセキュリティグループ情報 → ITA 上の「ロール管理」

- ・グループ名 — ロール名称

#### ③ AD 上のユーザーが所属するセキュリティグループ情報 → ITA 上の「ロール・ユーザ紐付管理」

- ・「②」の ITA 上に登録されたロール ID と名称 — ロール (ID:名称) \*4
- ・「②」にある「①」の ITA に登録されたユーザ ID と名称 — ユーザ (ユーザ ID:ログイン ID)

※注 : OU は権限として扱いません。よって、ITA 上のロール名としても扱われません。

※注 : 「ロール・メニュー紐付管理」については、手動で設定する必要があります。

ミラーリングされたレコードの最終更新者には「ActiveDirectory ユーザ同期プロシージャ」が設定されます。

このミラーリング処理は、AD 連携機能が有効である限り常に実行されます。  
したがって、ITA 上でレコードの上記①～③を更新しても、AD 情報で再度上書き更新されます。

また、廃止および復活処理についても AD 上の有効／無効の状態に基づきミラーリングをします。  
廃止および復活の詳細については、本項で後述します。

※AD 連携機能を有効にした状態のまま ITA 上でレコードを作成および編集する場合には、  
後述の『特別ユーザー』および『特別ロール』の設定をする必要があります。  
詳細は、「1.3.6 本機能の例外について」をご参照下さい。

\*1 上記①～③の情報に変更がない場合は、更新処理は行われません。

\*2 AD 上で設定されていない場合は、自動的にサインイン ID と同一のものを ITA 上に設定します。

\*3 AD 上で設定されていない場合は、自動的にダミー値を ITA 上に設定します。

\*4 AD 上でユーザーが1人も所属していないグループの場合は、レコードが作成されません。

### 【廃止】

以下の場合、ITA 上の当該レコードが活性中であればミラーリング処理でそれを廃止処理します。

- ・AD 上からユーザーまたはセキュリティグループを削除した
- ・AD 上のユーザーアカウントを無効にした
- ・AD 上でユーザーの「userPrincipalName」を削除した
- ・AD 上でグループのタイプをセキュリティグループから配布グループに変更した

### 【復活】

以下の場合、ITA 上の当該レコードが廃止中であればミラーリング処理でそれを復活処理します。

- ・AD 上から削除されていてユーザーまたはセキュリティグループが復元された <sup>\*5</sup>
- ・AD 上でアカウントが無効にしていたユーザーに対し、再度アカウントを有効化した。
- ・AD 上で「userPrincipalName」が削除していたユーザーに対し、再度「userPrincipalName」設定した
- ・AD 上でグループタイプを配布グループにしていたグループを再度セキュリティグループに変更した。

表 1.3-1 ケース別 廃止／復活処理の区別一覧表

AD 上の情報操作内容	ITA 上のレコード活性状態(ミラーリング処理前)	
	廃止中	活性中
ユーザーまたはグループの削除	何もしない	廃止
ユーザーアカウントの無効	何もしない	廃止
ユーザーuserPrincipanName を削除	何もしない	廃止
グループタイプの変更(セキュリティ → 配布)	何もしない	廃止
ユーザーまたはグループの復元	復活	何もしない
ユーザーアカウントの有効	復活	何もしない
ユーザーuserPrincipanName を再設定	復活	何もしない
グループタイプの変更(配布 → セキュリティ)	復活	何もしない

<sup>5</sup> AD 自体のバックアップを使って復元した場合やサーバーOS のフルバックアップを使って復元した場合など

### 1.3.5 AD 認証(Kerberos 認証)機能

AD 連携機能が有効である場合にはお使いのドメインに対して Kerberos 認証を行う為、普段 AD 上でお使いのサインイン ID およびパスワードをそのままご利用ください。

但し、以下のものに 1 つでも該当するユーザーは、本機能でログイン頂けません。

- ・連携対象外ユーザー<sup>6</sup>（次項で詳述）
- ・AD 上で「Kerberos 事前認証を必要としない」フラグが ON のユーザー
- ・AD 上で「ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要」フラグが ON のユーザー
- ・AD 上で「アカウントロック」状態であるユーザー
- ・ITA のログインに、サインイン ID 以外のログオン情報を用いようとしたユーザー
- ・何らかの理由で「ユーザー管理」に登録されていないユーザー
- ・何らかの理由で「ロール・ユーザ紐付管理」に紐付く権限が登録されていないユーザー

また、認証処理そのものは通過した場合でも、「ロール・メニュー紐付管理」でメニューへのアクセス権限を何ら紐付けられていないユーザーは、「不正アクセス画面」に遷移されます。

**※注: AD 連携機能が有効の場合、ITA 上でログインに失敗した場合でも AD 上のロックアウトカウンターにカウントが入ります。(次項で詳述する「連携対象外ユーザー」を除く)**

---

<sup>6</sup> ITA 内部認証(ITA 上で管理されるログイン ID とパスワードに基づく認証)にてログインして下さい。



### 1.3.6 本機能の例外について

「0

AD 情報ミラーリング機能」および「1.3.5 AD 認証 (Kerberos 認証) 機能」のいずれにおいても例外があります。

本項では、例外について説明します。

#### (1) 連携対象外レコード

ITA 上で作成した「ユーザー管理」レコード、「ロール管理」レコード、「ロール・ユーザ紐付管理」レコードは、原則としてミラーリング処理の際に自動的に廃止されます。

但し、例外として①～⑤の場合には AD 連携機能の連携対象外扱いとし、廃止されません。

- ④ ITA デフォルト(ユーザーID:1)のシステム管理者ユーザーの「ユーザー管理」レコード
- ⑤ ITA デフォルト(ロール ID:1)のシステム管理者ロールの「ロール管理」レコード
- ⑥ 特別ユーザーに指定されている「ユーザー管理」レコード
- ⑦ 特別ロールに指定されている「ロール管理」レコード
- ⑧ ユーザーまたはロールのどちらか一方でも特別指定されている「ロール・ユーザ紐付管理」レコード

なお、AD ユーザーのサインイン ID が 連携対象外ユーザー <sup>\*7</sup> のログイン ID と重複した場合は、当該の AD ユーザーの情報は ITA 上にミラーリングされません。

同様に、AD 上のグループ名が 連携対象外ロール <sup>\*8</sup> のロール名と重複した場合は、当該のグループ名は ITA 上にミラーリングされません。

**※特別ユーザーおよび特別ロールについては、外部認証設定ファイルで設定可能です。**

なお、機能の性質上、特別ユーザーおよび特別ロールの設定には AD からミラーリングしたレコードも指定できますが、推奨はされません。

特別ユーザーおよび特別ロールの設定機能は、あくまでも ITA 上で作成したレコードをミラーリング処理の対象から除外した場合にのみ利用されることを想定して提供しています。

**※AD からミラーリングしたレコードを特別ユーザーおよび特別ロールに設定した場合は、廃止がされないだけでなく、更新および復活もされなくなります。**

#### (2) AD 認証対象外 (ITA 内部認証)

連携対象外ユーザーは、AD 連携機能が有効中であつたとしても、常に ITA 上で管理されるログイン ID とパスワードに基づいて認証処理が行われます。(ITA 内部認証)

**※元々は AD からミラーリングされたユーザーであっても特別ユーザーに指定した場合は、ITA 内部認証となります。**

<sup>\*7</sup> 上記①③を合わせたユーザー

<sup>\*8</sup> 上記②④を合わせたロール

## 2 運用操作

ITA システムに対する操作は、ユーザーによるブラウザ画面からの入力だけではなく、ssh コンソールや FTP ソフトを使ったシステム運用・保守による操作もあります。運用・保守の操作対象は次のとおりです。

- インストール関連
- オペレーション作業履歴の定期削除
- ログレベルの変更
- メンテナンス

### 2.1 インストールの開始

インストール時の事後作業については、別マニュアル「インストールマニュアル」の 3 項動作確認をご参照ください。

### 2.2 オペレーション作業履歴の定期削除

投入オペレーション一覧に登録されているオペレーションで、実施日が設定されているオペレーションに紐づく作業履歴は、指定した保存期間を過ぎると削除されます。(廃止扱いとされます。)

作業履歴には以下のものがあります。

- ・ITA
  - Symphony で管理している情報
- ・各オーケストレータのドライバー
  - Ansible driver で管理している情報

保存期間は以下のファイルによって指定できます。

```
・ITA
~/ita-root/conf/yardconf/ita_base/keep_day_length.txt
・Ansible
~/ita-root/conf/yardconf/ansible_driver/keep_day_length.txt
・ドライバー共通
~/ita-root/conf/yardconf/ita_base/dataautoclean_conf.txt
```

この機能は、Cron に登録されている日時処理によって作動します。

Cron には、コマンド{ `crontab -e` } により以下の行が登録されており、実行時間を指定することができます。

・ITA

```
mm hh * * * su - -c '/exastro/ita-root/backyards/ita_base/ky_std_symphony-dataautoclean.sh'
```

・Ansible

```
mm hh * * * su - -c '/exastro/ita-root/backyards/ansible_driver/ky_ansible_dataautoclean-workflow.sh'
```

・ドライバー共通

```
mm hh * * * su - -c '/exastro/ita-root/backyardconfs/commn/ky_execinstance_dataautoclean-workflow.sh  
confs/backyardconfs/ita_base/dataautoclean_conf.txt'
```

mm:起動する時間(分)

hh:起動する時間(時)

## 2.3 ログレベルの変更

ITA システム 独立型プロセスのログレベルの変更方法は次のとおりです。

### ■ 対象ファイル

~/ita-root/backyards/webdbcore/ky\_mail  
~/ita-root/backyards/webdbcore/ky\_std\_checkcondition-linklist  
~/ita-root/backyards/ita\_base/ky\_std\_symphony-dataautoclean.sh  
~/ita-root/backyardconfs/commn/ky\_execinstance\_dataautoclean-workflow.sh

#### ① NORMAL レベル

「LOG\_LEVEL='NORMAL'」を有効にします。

```
# ログ出力レベル
#  DEBUG :解析レベルでログ出力
#  NORMAL:クリティカルな場合のみログ出力
#LOG_LEVEL='DEBUG'
LOG_LEVEL='NORMAL'
```

#### ② DEBUG レベル

「LOG\_LEVEL='DEBUG'」を有効にします。

```
# ログ出力レベル
#  DEBUG :解析レベルでログ出力
#  NORMAL:クリティカルな場合のみログ出力
LOG_LEVEL='DEBUG'
#LOG_LEVEL='NORMAL'
```

※ ログレベル変更は、プロセス再起動(Restart)後に有効になります。(「[2.4 メンテナンス](#)」参照)

## 2.4 メンテナンス

### 2.4.1 ITA システム 独立型プロセスの起動/停止/再起動

メール送信機能を例示します。

ロール紐付確認＋クリーニングの場合は、「ky\_mail」を「ky\_std\_checkcondition-linklist」に読み替えてください。

#### ① プロセス起動

```
$ service ky_mail start ↵
```

#### ② プロセス停止

```
$ service ky_mail stop ↵
```

#### ③ プロセス再起動

```
$ service ky_mail restart ↵
```

## 3 Appendix

### 3.1 トラブルシューティング

No	内容
Q-1	表示の動作が重くなる 大型サイズのファイルダウンロードに時間かかりすぎる 処理がタイムアウトになる PHP スクリプトが強制終了する
A-1	PHP のメモリ設定が足りないことが考えられます。 PHP 設定ファイル「php.ini」内の次のパラメータの値を見直して、割り当て可能な最大値を設定してください。  ・memory_limit                  PHP に割り当て可能なメモリ  ファイルのアップロードで同様な事象も発生する可能性があるため、次のパラメータ値の見直しもあわせて行ってください。  ・post_max_size                  post データに許可される最大サイズ ・upload_max_filesize          ファイルあたりの最大サイズ
Q-2	「ita-root」(ITA システムのルートディレクトリ)の作成の注意点を教えてください。
A-2	ディレクトリ位置は、「絶対パス」と、ブラウザで指定する「ファイル名」の 2 つを合わせて 1,024 文字以内で収まるように配慮してください。 全体のパス名が長い場合、サーバーの動作に悪影響(遅い／フリーズ)を与える可能性があります。
Q-3	ITA システムでは Web 画面上の「表示フィルター」サブメニューでキーワード検索や曖昧検索が可能です。RDBMS が <b>Oracle の場合</b> 、ワイルドカード記号(たとえば"*"、や"#") <b>のみを指定する曖昧検索は期待とおりの結果が得られないことがあります。</b>
A-3	Oracle で記号の曖昧検索を行いたい場合、記号の前後に文字列をあわせて入力・検索を行ってください。 (例) × : 「*」 ○ : 「あ*」、「い*は」など
Q-4	アカウントロックされてログイン出来ない場合

No	内容
A-4	<p>ログインを何回か失敗するとアカウントがロックされます。 ロックがかかる失敗回数は「システム設定」内のパラメータの設定によって変更します。</p> <p>・PWL_THRESHOLD パスワード誤り閾値(回数)</p> <p>またアカウントロックの継続期間も「システム設定」内のパラメータの設定によって変更可能です。</p> <p>・PWL_EXPIRY アカウントロック継続期間(秒)</p> <p>※パラメータ「PWL_EXPIRY」の値をゼロ(0)にすると、ログインを何回失敗してもロックは掛かりません。</p>
Q-5	AD 連携機能で、外部認証設定ファイルに複数の DomainController の設定する時に、異なるドメインの DomainController を設定できますか。
A-5	<p>設定できません。</p> <p>ITA では AD 連携時に内部処理として AD のドメイン一意キーである SID を取得しています。異なるドメイン間では SID が重複する可能性がある為、異なるドメインの DomainController を設定した場合には ITA 側に AD 情報を同期できなくなります。</p>
Q-6	一度 ITA と連携した AD ドメインを再構築したところ、AD 連携ができなくなりました。
A-6	<p>再構築した場合(バックアップした場合も含む)は、内部処理で取得した SID が ITA 上の DB 内で重複する場合があります。 重複が発生した時点で、AD 連携機能の処理が正しく行われなくなります。</p> <p>一度 ITA と連携した AD ドメインを再構築後に再度 ITA と連携した場合は、お手数ですが ITA そのものも再構築してください。</p>
Q-7	一度 AD 連携を有効にしたものの、不要になったので無効にしました。しかし、ミラーリング処理で ITA 上に登録されたユーザー・レコードならびにロール・レコードが廃止されません。
A-7	<p>仕様となります。</p> <p>お手数ですが、画面上から手動で廃止して頂くか、ファイルアップロード機能を利用頂いて一括廃止するなどして下さい。</p>
Q-8	ITA 上にミラーリングされている AD ユーザーなのにも関わらず、ITA にログインできないユーザーがいます。
A-8	<p>ITA 上にミラーリングされている AD ユーザーだったとしても、外部認証設定ファイルに記述された内容で以下の①と②に相違があり且つ①で指定された範囲外のユーザーはログインできません。</p> <p>① 『DomainController_1(DomainController_2)(DomainController_3)』の【basedn】 ② 『Replication_Connect』の【basedn】</p> <p>詳細は、「システム構成／環境構築ガイド_ActiveDirectory 連携編」をご参照ください)</p>
Q-9	OU で探索範囲を指定する時に、複数の OU を指定することはできますか。



No	内容
A-9	<p>できません。</p> <p>複数の OU を指定されたい場合には、それら上位となるレイヤーに OU を更に作成して頂き、その上位の OU を探索範囲として指定してください。</p>
Q-10	Azure ActiveDirectory(以下、Azure AD と言います)に対して ITA の AD 連携機能を使うことはできますか。
A-10	できません。
Q-11	「Azure AD Connect」で Azure AD と同期している AD に対して ITA の AD 連携機能を使っている時、Azure AD で作成および編集したグループのグループ名が ITA 上のロール名に反映されない時があります。
A-11	<p>AD 連携機能において取得するグループ名称は、グループの sAMAccountName です。</p> <p>AD の製品仕様として、Azure AD 上で作成および編集したグループ名が必ずしも AD の sAMAccountName に反映されるわけではない為、反映されなかった場合には ITA 上のロール名にも反映されません。</p> <p>※AD の詳細な仕様については Microsoft 社のサポートおよび公式ドキュメント等をご参照ください。</p>